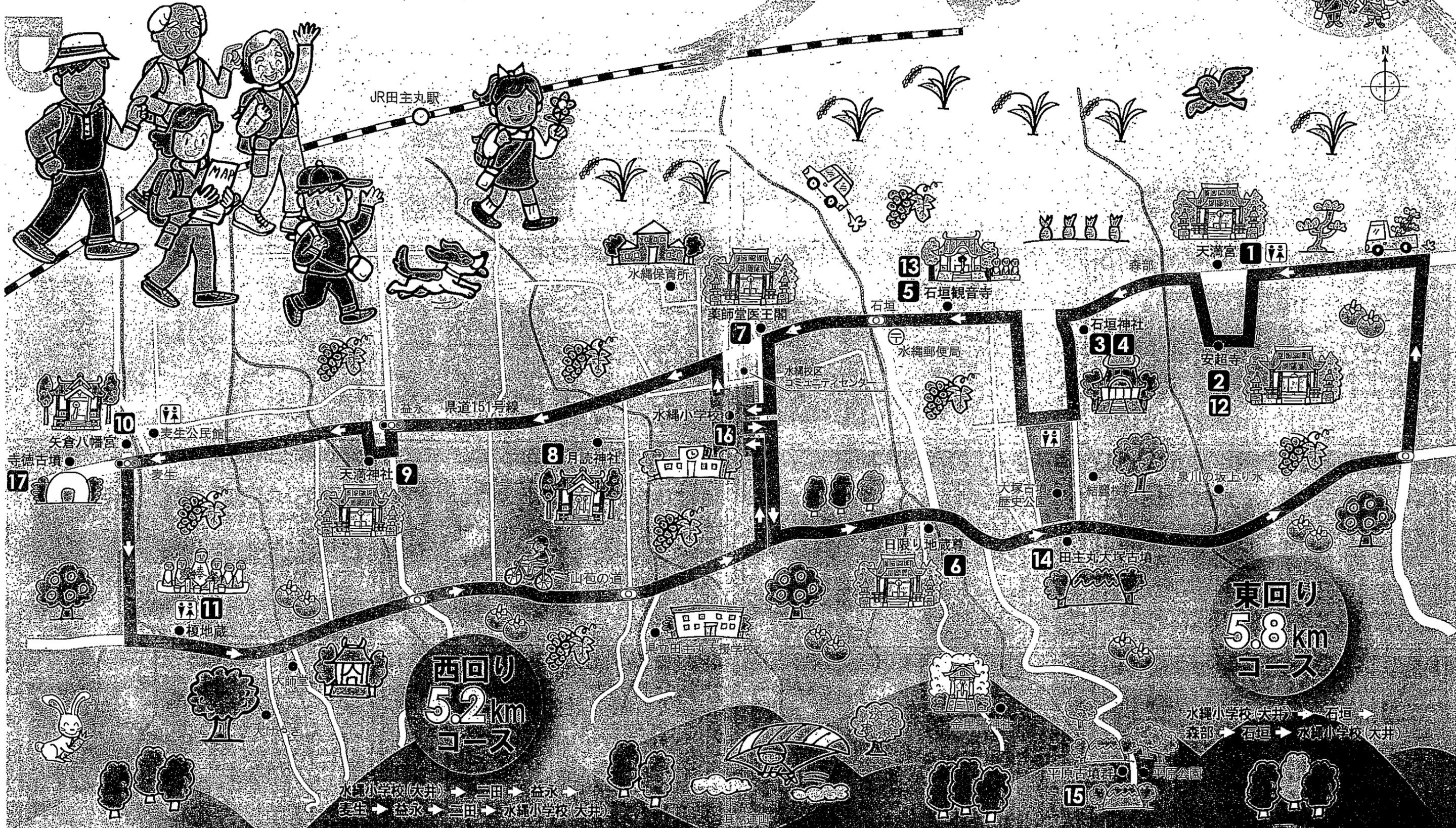


# 水縄校区ウォーキング ふれあいマップ

耳納連山北麓の水縄校区は美しい自然と長い歴史を持つ地域です。そんな環境の中、ウォーキングを通してご家族やお友達で、散策をしながら水縄校区の神社やお寺、古墳など素晴らしい歴史を再発見してみませんか？



# 水縄校区

# ウォーキングふれあいマップ

健康・歴史・ふれあいのエリア



## 1 天満宮(本部)

倉富氏の始祖と伝えられている倉富胤知が、大宰府天満宮の菅原道真を祭神として勧請(新しくお宮に祭神を移す)し、創建しました。神殿は明和8年(1771年)、拝殿は安永3年(1774年)に再建。明治6年に村社となっています。



## 2 安超寺(本部)

龍造寺氏の子孫、倉富氏の始祖と伝えられている対馬守胤知が、大友氏の戦いに敗れ、森部にて出家し道賢となる。その三男の道賢は、西山本願寺賢上人の教えを受け、元禄3年(1688年)に兄の紹安と紹円の名をとり、安超寺を創建したが、万治3年(1660年)に安超寺と改称されました。また、有馬家の弾圧で東本願寺派への転属に従わなかったために、正徳5年(1715年)第六代有馬則維のときに寺のお堂を壊され家族は追放されたと伝わっています。



## 3 石垣神社本堂(石垣)

和同2年(710年)約1300年前、元明天皇の勅命を以って、僧行基によって、応神天皇・武内宿禰住吉天神を祀られたと神社名鑑にあります。古来より由緒のある神社で、寛文10年「社方開基」には、高良社により勧請(新しいお宮に神をお迎えする)により、真宮大菩薩、八幡大菩薩、住吉大明神の三神が、本殿に祀られています。境内の樹木は、久留米市より歴史の森として指定されています。



## 4 石垣神社(石垣)

◆楼門/安永9年(1780年)に建立され、両翼廊を備えた本格的な楼門としては県内では数少ない貴重な楼門です。  
◆鳥居/明暦元年(1655年)に建立され、額東に『新宮社』とあり、今日では『お新宮様』とも言われています。この鳥居は、高良社と同年に建立され筑後地区でも数少ない古い鳥居です。古文書11巻と共に久留米市文化財に指定されています。



## 5 石垣観音寺(石垣)

白鳳2年(647年)、天武天皇の勅願寺として創建され、奈良時代の和銅元年(708年)行基菩薩が七堂伽藍(寺の主な七つの建物)を造営し、開基したと伝えられています。和銅6年(713年)13の末寺と広大な寺領を持ち筑後路最大の寺となり、日本最古の観音霊場「九州西国霊場」の第十九番札所でもあり隆盛を極めた。また、牛鬼を退治して耳を納めた事から耳納山の名の由来が伝えられ、観音寺には手のミイラが残されている。



## 6 日限りの地藏堂(石垣)

慶応元年(1865年)、観音寺再中興第22世住職、亮信和尚が願主となり、田主丸町及び石垣村の方々により寄進された。このお堂の境内は観音寺本坊から南の奥の院(嶽の観音)への参詣通路と西の来目(久留米)より東の日田への街道が交差する所で延命ヶ辻といわれる。ご本尊の坐像は日限りの地藏と呼ばれ、1週間とか1ヶ月とか、お参りの日数を決めて安産、長寿、延命、病氣平癒などの願いを立てれば、叶えられると伝えられています。



## 7 安超寺薬師堂(本部)

『お薬師さま』とも言われています。弘仁5年(814年)、伝教大師(最澄)が宇佐八幡から観音寺へ参詣された時に境外仏堂として創建されました。建久・文禄年間にも再興された大井の中心のお堂です。明治26年に、大井寺・医王寺・小石垣寺・六田寺・蓮用寺の本尊が合祀され、毎月の八日のご縁日となっています。



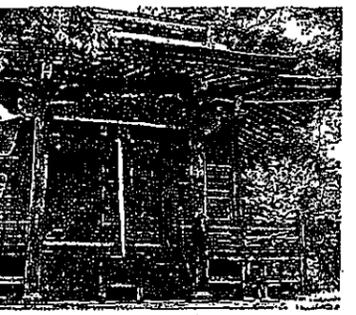
## 8 月読神社(天満)

月読神社は古来から眼の神様として崇められ、先を読むと言う事から開運や厄除けの神とされ、潮の満ち引きが月の引力により起きることから安産や大漁にも御利益があるとされています。もとは御原郡の高橋城内にあって眼病平癒で崇敬のあつた神霊が天文3年(1534年)正月23日に二田村に鎮座されました。明治6年に村社に、明治43年に天満神社と合併しました。



## 9 天満神社(本部)

田主丸地域では明治8年当時88ヶ村のうち72ヶ村で天満宮(天満神社)が鎮座し、大宰府天満宮の影響を強く受けています。本殿まえには明和6年(1769年)建立の灯籠があり、祭神は菅原道真で、明治6年(1873年)に村社となっています。



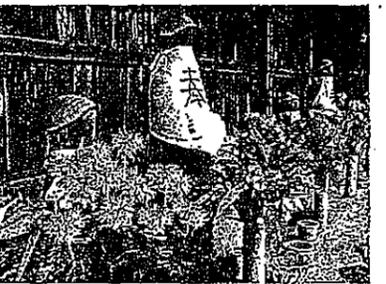
## 10 矢倉八幡宮(本部)

明治6年(1873年)に村社となっている。大正12年(1923年)に宇本屋敷の牟麻神社(高木神)と五条神社(少彦名神)を合併。境内には秋葉神社、高田神社、御祖神社、浅間神社、八千代神社があります。矢倉の由来は、もと内山城の櫓に祀った八幡宮を麦生に移し矢倉八幡となりました。※矢倉八幡宮のご神宝『銅矛』(全長84.7cm、鋒部幅8.6cm、胴部幅10.2cm)が300年ほど前に荒木町の天神浦遺跡で出土した貴重な弥生時代の文化財です。



## 11 六地藏(本部)

山辺往還筋に古くあり、六体の地藏像を祀られていることから『六地藏さん』とも言われています。200年の歴史があり、さまざまな病に効果があるとされています。久留米と日田を結ぶ主要街道にあって、村人のぬくもりを伝えています。



## 12 安超寺の大銀杏(本部)

安超寺の大銀杏は根回り23メートル、高さ12メートルほどもあり、毎年秋になるとその葉が紅葉し、ひととき黄金のように輝きます。銀杏は寺の創建以来、450年もの間、その波瀾の歴史を見続け、町の天然記念物となっています。※本堂の天井には、天保の時代を生きた田主丸出身の画家「吉瀬端道」の天井絵が残っている。制作途中で亡くなったと伝えられています。



## 13 観音寺のサザンカ(石垣)

境内にある樹齢300年を超えるハルサザンカは寺名から『観音寺』と名づけられサザンカとやぶ椿との雑種に、さらにやぶ椿を戻し交雑した三倍体のハルサザンカで花は中輪の半八重で赤く、丸みをおび珍しい品種です。満開になる2月には『サザンカ祭り』が行われ、住職の講話や地元の方々のお接待があります。当日はたくさんの来訪客で賑わい、観音寺のサザンカ祭りは、春の訪れを告げるお祭りです。



## 14 田主丸大塚古墳(石垣)

水縄山麓の標高70m~80mに位置し、墳丘長103m、後円部径60mの前方後円墳で、六世紀の後半に築かれたと推察され、その時期では九州最大の規模を誇ります。田主丸大塚古墳は、江戸時代終わりの久留米藩士、矢野一偵が著した筑後地方の総合的な歴史書『筑後将士軍談』に、石垣村大塚として紹介されています。同書はこの古墳について「山辺街道の南側にあり、当国一の大家なり」と記されています。国指定史跡田主丸古墳群となっている。



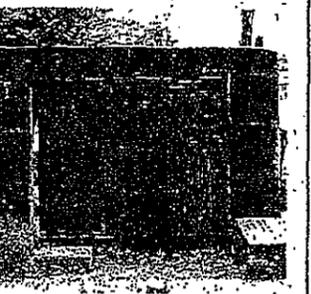
## 15 平原古墳群(本部)

六世紀の後半から終末にかけて作られ古墳と推定され、平成4年に県の史跡に指定されています。70基の大きな群をなし、墳丘径は小さいもので5メートル、大きなもので17~18メートル程度の小規模の古墳で豪族と言うより集落の家族墓といったものとされています。平原公園として春には見事な桜の名所として有名です。



## 16 水縄小学校(本部)

明治25年に水縄尋常小学校として開設されて、平成4年に創立100周年を迎え、記念事業の一環として『夢原』の記念碑が建てられました。受け継がれたこの100年の歴史で28代の学校長と五千数百名の卒業生を送り出してきました。これからも水縄校区、そして日本の未来を創る子供たちが育つことでしょう。



## 17 宗徳古墳(本部)

山麓の県道沿いに位置する、直径18mほどの円墳で、造られた時期は6世紀の後半とされています。全長10.4mほどが、残っており、壁面には同心円文や三角文が鮮やかな赤・緑で彩色されています。明治29年に発掘され、出土遺物は、金環、勾玉、管玉などの玉類、馬具、須恵器が出土しました。昭和43年国指定史跡に指定されています。



\*参考資料=水縄小学校百年史・浮羽郡誌・田主丸町合併50周年記念誌・田主丸町誌「ムラとムラびと」・みのうの豆本・みのう自慢・現地看板・寛文10年久留米藩社方開基・福岡県神社誌・神社名鑑(神社庁)・浮羽郡案内(浮羽郡役所編)※ 宮司、林 裕氏 協力